

第1回桧原山荘運営検討委員会議事録（要約）

と き 令和7年11月17日（月）

ところ 桧原山荘

出席者 森委員長、小山副委員長、加辺委員、今井委員、岡部委員、亘理委員

1 委員長・副委員長の選出

互選により、委員長に森委員、副委員長に小山委員を選出した

2 桧原山荘の現状について

(1) 主な課題

①収支・運営面の課題について

現在の試算では運営収支が成り立つか不透明との指摘があった。

利用料金、利用人数の見込み、保険料、清掃費、管理人配置費などの経費を十分に積算する必要がある。

モニター利用の結果だけでは実際の需要や収益性を判断しにくいとの意見が出された。

管理人不在による施設管理の難しさ（設備確認、施錠、備品管理など）が課題として挙げられた。

②安全面・リスク管理について

山荘は土砂災害警戒区域（レッドゾーン・イエローゾーン）に位置しており、安全性への大きな懸念が示された。

耐震性や建物劣化について専門的な調査が必要との意見があった。

補強工事を実施しても土砂災害への対応には限界があり、利用者の安全確保が最大の課題とされた。

熊の出没や自然災害リスクも指摘された。

事故発生時の責任の所在や保険加入の必要性について検討が必要とされた。

③施設維持管理について

雨樋清掃や草刈りなど定期的な維持管理が必要。

備品管理や利用後の点検体制が未整備。

シルバー人材センターや近隣住民の協力活用の可能性が示された。

(2) 山荘の価値・活用意義について

子どもの自然体験の場としての価値

小金井市内では自然体験の機会が限られており、子どもたちの体験格差を埋める貴重な施設との意見があった。

令和6年度は約200人が利用し、そのうち約150人が小金井市の利用者であった。

建物の安全性だけでなく、施設が持つ教育的・体験的価値も評価すべきとの意見が出された。

地域福祉施設としての活用可能性について

子ども会だけでなく、学習支援事業、夏休みボランティア活動、子ども食堂関連事業、ボランティア団体、中高年クラブ など社協らしい活用方法の検討が提案された。

(3) 利用拡大に向けた提案

子ども会利用だけでは採算確保が難しいため、一般利用や少人数グループ利用の拡大を検討すべきとの意見があった。

市報等を活用した広報強化の提案。

檜原村との連携強化や関係人口を対象とした利用促進の提案。

バス代高騰が利用減少の要因の一つであり、交通支援策の検討が必要との意見。

地元商店や体験プログラム（手打ちうどん体験など）と連携し、地域経済への波及効果を高める提案が出された。

温泉、売店、観光資源等の周辺情報を整理し、利用者へ提供する必要性が指摘された。

3 今後の検討事項

次回までに事務局で以下の課題を整理し、根拠となる数字や資料を提示することとなった。

建物の安全性・耐震性、土砂災害リスク、保険加入の必要性と内容、管理体制（管理人・点検体制）、維持管理費用、利用料金設定、利用需要（ニーズ調査）、モニター事業実施の可否、収支シミュレーション

〈会議の概要〉

檜原山荘には子どもの自然体験や地域福祉活動の拠点として大きな価値がある一方、土砂災害リスク、安全対策、管理体制、収支見通しなど重大な課題が多く存在することが共有された。今後は、これらの課題を具体的な数字と根

拠に基づいて整理し、山荘を継続活用できる条件を検討していくこととなった。